

No. 1226

自民、過半数を確保

—— 第11回参院選 ——

与野党逆転攻防が最大の焦点となった第11回参議院選挙。自民党は当初の予想を上回る健闘を見せた。激戦の東京地方区では原文兵衛氏がトップで当選すればタレント候補、扇千景さんも上位当選。強気の福田総裁は「国民は政治の安定を望んでいる。それだけに自民党の責任を感じる」退潮が続く社会党は今回も惨敗。わずかに全国区、田英夫氏が前回に続いてトップ当選。退陣問題も出た成田委員長は「大変厳しいと思っていたが……党内のゴタゴタ、江田問題など国民に批判されたと思います」。亡き江田三郎氏に変わって出馬した社会市民連合の江田五月氏は上位で当選。初のよろこびを「この輪を大きくふくらましていきたい」。革新自由連合では俵萌子さんが敗れたものの、全国区で横山ノックさんが当選、一議席を獲得した。固い組織に乗る公明党は先の総選挙の勢いを持続。黒柳明氏は東京地方区で早々と当選を決めた。全国区では全員当選を果たし、地方区でも北海道を除く五つの地方区で議席を勝ちとった。

民社党、春日委員長は「大勝利とは言えないが、確実に前進している。我が党に対する国民の期待は一段とボリュームが高くなっている。」社会党と共に退潮の続く共産党は宮本委員長自から出馬したものの、やはり伸びず、改選議席を大幅に下回る惨敗の宮本委員長は「やはり厳しかった」と沈痛な面持ち。「戦術や国民へのアピールの仕方に問題があった。支持してくれた人に対し、お礼とおわびをいいたい。」先の総選挙でブームを起こし、大量当選した新自由クラブ河野代表は厳しい表情で卒直に伸び悩みを反省した。が埼玉と東京、それに全国区で一つの議席を得た。

過半数を守った自民党、喜色満面でダルマに目を入れる福田さん、しかし、与野党伯仲は依然として続く。